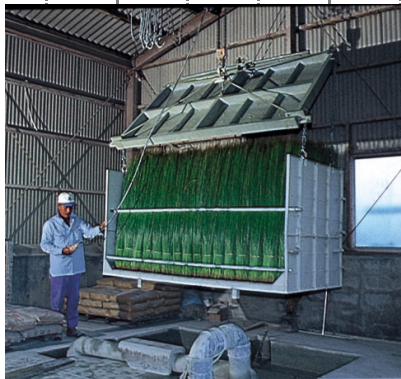


いぐさ農家の一年（栽培と製織）

11月			12月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
																										
1 育苗・苗堀り 畑（苗床）に植付けた苗を8月に掘り出し水田苗床へ植付け、苗を育てます。それを11月中旬に掘り出し、本田へ植え付けるための調整（株分けや根切り）などを行います。						3 先刈り 根元までしっかり日光を届けるために、5月上旬頃、いぐさの先端を刈り払い、新芽の発芽を促します。収穫の45日前頃に出る芽が長くて質の良いいぐさになるため、このような作業を行います。						5 収穫 6月下旬から7月中旬にかけて刈り取ります。いぐさの鮮度を保つため、刈り取りは気温の低い早朝や夕方に行います。						7 製織 泥染め、乾燥したいぐさを、長さごとに選別して、畳表に織り上げます。この作業は一年かけて各農家で行われます。いぐさ農家は、栽培から畳表の製織までを一貫して行っています。								
																										
2 植え付け 11月下旬から植え付けが始まります。調整した苗を移植機等で本田へ植え付けます。						4 網張り いぐさは150cm以上に成長するので、倒伏防止のために水田全体に網を張ります。網の間から先端をだし、折れ曲がることなく、すくすく成長します。						6 泥染め・乾燥 刈り取ったいぐさは、畳独特の色や香り、光沢を出すために、天然染土を使って泥染めをします。泥染めをすることで表面をコーティングし、均一に乾燥させることが出来ます。その後、乾燥機で乾燥させます。						8 仕上げ 織り上げた畳表は、一枚一枚、手作業で傷が無いか等をチェックして仕上げます。								
																										
												9 検査・出荷 仕上げが終わった畳表は、厳しい検査を受けます。検査に合格した畳表は製品のランクごとに分けられ、全国に出荷されます。														

写真提供：熊本県八代市

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tokusan/igusa_tatami-omote.html